

①施策の目的等

施策の名称	施策 I-6-2 航空路線の維持・充実
目的	航空路線の維持・充実により、県内3空港の利便性の向上を目指します。

②成果参考指標の目標(実績)と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
出雲縁結び空港の年間乗降客数	目標値	80.0	82.5	85.0	87.5	90.0	万人	萩・石見空港の年間乗降客数	目標値	13.0	13.5	13.8	14.1	14.5	万人	
	取組目標値								取組目標値							
	実績値	82.9							実績値	12.6						
	達成率	103.7	-	-	-		%		達成率	97.0	-	-	-		%	
隠岐世界ジオパーク空港の年間乗降客数	目標値	5.1	5.3	5.3	5.4	5.4	万人		目標値							
	取組目標値								取組目標値							
	実績値	5.3							実績値							
	達成率	104.0	-	-	-		%		達成率	-	-	-	-		%	
定性目標	平成28年度～平成31年度															
成果参考指標の実績等の補足説明(任意記載)	年間乗降客数は、季節運航も含めた定期路線の数値で、チャーター便の乗降客数は含めていない。															

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> 県内航空路線を維持、拡充させるため、各空港の利用促進協議会の旅行商品造成や利用情報発信などの活動経費に対し助成を行い、地元自治体とも連携し、アウト・イン双方の利用促進対策に取り組んでいる。 第1四半期(4月～6月)の各空港の乗降客数の状況(対前年度比)は、 【出雲縁結び空港】 103.3% 【参考】平成27年度実績：82.9万人 平成28年度数値目標：82.5万人 【萩・石見空港】 84.0% // : 12.6万人 // : 13.5万人 【隠岐世界ジオパーク空港】 96.1% // : 5.3万人 // : 5.3万人 となっており、萩・石見空港はやや低調だが、他の2空港は微増・微減である。
---	--

④今年度末の施策目的の達成度予測

	判断	その理由
28年度の施策目的の達成度予測 A:達成できる B:概ね達成できる(見直す点がある) C:達成は困難	B	<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社の平成の大遷宮、津和野町の日本遺産認定、隠岐世界ジオパーク認定などを活かした観光客誘致や各利用促進協議会の取組の効果、出雲名古屋線の再開(平成27年3月～)、石見東京線の2便化(平成26年3月～)などにより、3空港の年間乗降客数は、この5年間、概ね、増加傾向にある。 平成28年度も、出雲東京線の機材大型化、出雲名古屋線の2便化(いずれも7月から)及び石見東京線の2便化継続などにより、3空港の乗降客数は、堅調に推移すると考えている。また、各利用促進協議会で、閑散期となる冬季の対策に力を入れる予定であり、成果参考指標は「概ね達成できる」と考えている。なお、年度当初は、団体旅行者が減少しやや低調であった萩・石見空港も、旅行会社への働きかけなどにより、7月からはその団体旅行者が上向きとなり、今後も状況を注視しながら、適時に必要な対策を講じることとしている。

⑤課題の認識

(1)平成31年度末の施策目的の達成状況(予測) A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	判断	その理由(④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載)
(2)施策の目的達成に向けての課題	B	<ul style="list-style-type: none"> 景気停滞や人口減少等により、航空需要の顕著な拡大は望める状況にはなく、国内地方航空路線を取り巻く運航環境は、引き続き厳しいものがある。 こうした状況の中、県内航空路線の維持・拡充のためには、観光客のさらなる集客や企業の誘致などによる交流人口の拡大に繋がるよう、利用しやすいダイヤへの改善や旅客需要に見合った機材の運用など利便性の向上が重要である。 また、新幹線と競合する山陽地域の各空港に比べ、県内空港は割引運賃に差があるため、航空運賃の低廉化も必要である。

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各空港の利用促進協議会、地元自治体や観光担当部局と連携して、乗降客数の増加に向け、引き続き、首都圏、関西などの大都市圏からの観光客の集客をはじめ、地元からの利用拡大などに取り組み、各路線の維持・充実に繋げていく。 航空会社に対しては、航空運賃の低廉化、旅客需要に応じた機材の運用、利用しやすいダイヤへの改善などを粘り強く要望していく。 国に対しては、羽田空港発着枠の地方航空路線への優先配分や地方の航空路線維持・拡充に向けた取り組みへの支援制度の創設などを要望していく。
---------------------	---

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	施策 I - 6 - 2 航空路線の維持・充実				
-------	-------------------------	--	--	--	--

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	出雲空港路線の維持・充実事業	出雲空港の大都市圏でのPR、利用促進キャンペーン等の利用促進事業を実施し、利用者を増やすことにより、路線の維持充実に繋げ、利便性を向上させる。	17,939	14,772	交通対策課
2	萩・石見空港路線の維持・充実事業	利用促進事業の実施により、増便やダイヤ改善等の利便性の向上に取り組み、高速交通ネットワークが未整備である石見地域において、大都市圏と直結した高速交通手段である航空路線の維持・充実を図る。	103,000	100,000	交通対策課
3	隠岐空港路線の維持・充実事業	運賃助成や旅行商品の低廉化等により、利便性を向上させ隠岐空港路線の維持・充実を図る。	26,359	23,859	交通対策課
4	国際チャーター便誘致事業	国際チャーター便等の運航に対して支援し、交流人口を増やすことにより定期便の開設を目指す。定期便の開設は、アジアを中心とした近隣諸国への渡航を容易にし、県民の利便性は向上する。	888	8,158	交通対策課
5	出雲空港周辺対策事業	出雲空港の管理運営や県民の利便性向上のためのダイヤ変更等に対する理解と協力を得ることにより、運航の安全性、定期性の向上を図り、利用者の利便性を高める。	996	17,329	交通対策課
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					